

1 産地の概要

<対象地域> 伊賀市

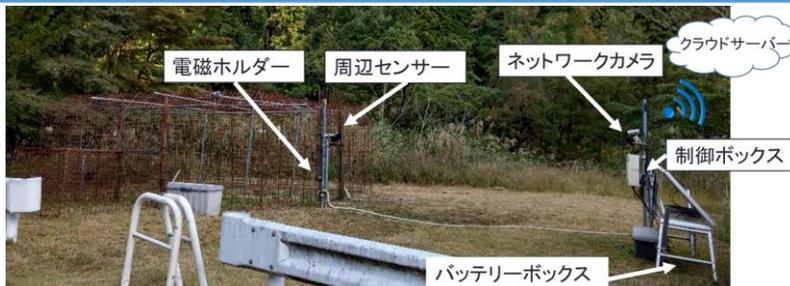
<産地の現状・課題>

- アンケート結果※によると、市内の67の集落で、ニホンジカによる被害が問題となっていた。
※集落代表者へのアンケート調査(H25)において、被害が「大きい」以上の回答をした集落数(有効回答数154)
- 平成21年度以降、被害対策として、金属製の侵入防止柵の設置や周辺環境の整備が進められたことで、被害額は減少傾向で推移していた。
- しかしながら、柵の開口部や破損部分からの侵入による被害があり、十分に被害軽減を実感できない状況が見られた。
- このため、柵の整備と併せて周辺での捕獲を強化する必要があったが、従来の箱罠やくくり罠などでは、一度の捕獲頭数が1頭～数頭に限られるとともに、取り逃がした個体は檻・罠に対して警戒心を高め、捕獲が困難となることから、新たな捕獲技術が求められていた。

2 検討体制

<構成員と(役割)>

- 地域住民、狩猟者(大型檻管理等)
- 伊賀市役所(地域住民、狩猟者との調整等)
- (一社)獣害対策先進技術管理組合(被害軽減体制の維持、啓発、研修事業等)
- (株)アイエスイー(遠隔監視操作システムの開発・運用)
- 鳥羽商船高等専門学校(遠隔監視操作システムの開発)
- 兵庫県立大学(遠隔監視操作システム、捕獲技術の開発、捕獲技術体系確立と実証)
- 三重県(農業研究所、林業研究所、普及センター、獣害対策課)
(遠隔監視操作システムの開発、捕獲技術体系確立と実証、密度指標資料作成)



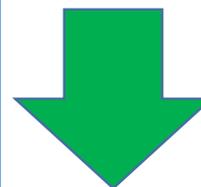
遠隔監視操作システムの概要

3 新たなニホンジカ捕獲技術

<目指すニホンジカ捕獲技術>

捕獲頭数が不足していることで、ニホンジカが高密度となっている地域において、ICTを活用した遠隔監視操作システムと大型捕獲檻を導入し、効率的な捕獲に取り組むことで、生息密度の低減と被害軽減を図る。

	H21	H22	H23	H24	H25
従来のシカ対策	エサ資源の除去、侵入防止柵の整備				
	くくり罠、箱罠による捕獲				



同時に出没する複数の個体をまとめて捕獲することが可能な「遠隔監視操作システム」を開発し、捕獲頭数が不足しているニホンジカの高密度地域に、当システムと大型檻を導入

	H26～
新たなシカ対策	エサ資源の除去、侵入防止柵の整備
	くくり罠、箱罠による捕獲
	遠隔監視操作システムによるニホンジカの高密度地域における集中捕獲

<新たなシカ対策の効果(検証結果)>

- 被害金額(伊賀市報告): 3,432千円(H25)→2,016千円(R元)
- 被害が「大きい」以上の回答をした集落数:
67集落(H25 有効回答数154)→55集落(R2 有効回答数154)